

北海道建築士

HOKKAIDO KENCHIKUSHI 2015.12.No220

12月号

目次

- 第40回 (一社)北海道建築士会
全道大会(紋別大会)を終えて………1
- 特集 第40回一般社団法人北海道
建築士会全道大会(紋別大会)………2
- 青年・女性の窓………6
[No.74 HOKKAIDO 建築士会 女性委員会]
- 支部だより………7
[遠軽・北空知]
- information………8

URL <http://www.h-ab.com/>



第40回 (一社)北海道建築士会全道大会(紋別大会)を終えて

第40回 一般社団法人北海道建築士会全道大会実行委員長

一般社団法人北海道建築士会 紋別支部 支部長 **高野 昭一**

北海道建築士会全道大会紋別大会が、全道34支部の会員と、遠く青森県建築士会、兵庫県建築士会から、また多くの来賓の方々の参加を頂き、盛大に開催することができましたことに、心より厚くお礼を申し上げますとともに、大会を支えてくれました賛助会員の皆様、網走ブロック・道東ブロックの各支部の皆様、そして、大会全体の指導をして頂きました本部事務局の皆様にお礼を申し上げます。

正会員数39名の小さな支部ですが、再構成した青年部と、高齢の正準会員にむち打って1年間の準備期間を経て、本大会開催にいたりました。

テーマであるオホーツクの四季の中で、参加者全員がこの小さな町で、それぞれが熱くなって作り上げた大会でもあったことから、「良かった。おいしかった」という言葉に一喜しながら、実行委員全てが涙が出るほど感動した大会でもありました。

大会期間中、多方面から当市のまちづくりの方向性を議論して頂き、支部として、建築士として、改めて市民と協働したまちづくりへの参画の責務を感じたところであるとともに、大会開催の貴重な経験ができたことで、会員の一步を踏み出す勇気と、その結果がもたらす感動を確認できた大会でもありました。

基調講演の倉本龍彦先生夫妻が、懐かしい紋別を楽しんでくださったこと、オホーツク海を揺れるガリンコ号に乗って、氷海展望タワーで女性バンドの演奏を聴きながらカニを食べ、参加者全員が熱く盛り上げてくれたことなど、大変うれしい光景を見させて頂きました。

終わりに、参加して頂きました皆様が、「大会」を思い出として長く抱いてくれることをご祈念申し上げ、お礼の言葉といたします。感動をありがとうございました。



大会式典 高野大会長挨拶



大会式典 オープニング (東京プラススタイル)



基調講演 建築家 倉本龍彦氏



青年サミットの様子



青年サミット

第40回一般社団法人北海道 建築士会全道大会 (紋別大会)

大会テーマ：オホーツクの四季を編む ~北の建築士 季節の中で熱くなれ~
 青年サミットテーマ：オホーツクの四季から奏でるまちづくり
 2015.9.18 9.19 会場 紋別市民会館 まちなか芸術館



会場 紋別市民会館



サミット まちあるき



サミット ワークショップ



サミット 懇親会



綱領朗読



高野大会長 挨拶



高野実行委員長 挨拶



A分科会 (女性委員会)



A分科会 セミナー「地域材活用」



A分科会 見学会「北見信金 紋別支店」



会長表彰



会長表彰 受賞者の皆様



B分科会 (まちづくり委員会)



B分科会 雨天のためバスにて視察



B分科会 講師の寺井室長 (紋別市)



基調講演 建築家 倉本龍彦氏



講演



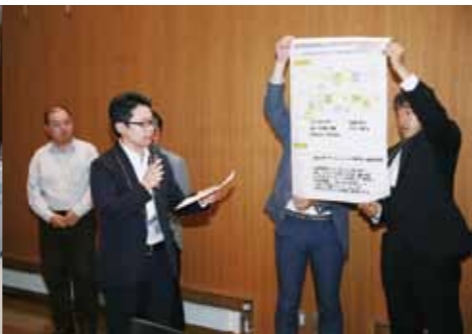
大懇親会



C分科会 (青年委員会)



C分科会 ワークショップ



C分科会 発表



東京プラススタイルの演奏



大抽選会



次期開催地アピール (室蘭支部)

分科会報告

A 分科会

素材のチカラ オホーツク
の森と暮らしをつなぐ

女性委員会 副委員長
金子ゆかり（釧路支部）



ここ数年、女性委員会では素材に焦点を当てて分科会を運営してまいりました。紋別大会では日本最大の森林認証エリアがオホーツクであることから、今まで勉強する機会の無かった森林認証制度や認証材、地場産材の利用について学ぶ機会といたしました。

座学と見学会の二部形式での運営は初めての試みだったため、不安もありましたが、紋別支部のご協力により無事に実施することができましたことに感謝を申し上げます。

まずは紋別市民会館にて紋別市役所農政林務課長石田明久様を講師に制度や道内での普及状態、また、紋別市における認証材利用実例などをご紹介いただきました。

後半は会場を変え、北見信金紋別支店の見学会を行いました。

設計された(株)北海道日建設計室長菅原秀見様から、設計主旨や施主からの要望、また構造についての話など幅広くご説明いただき、見学中に疑問を感じたことについて随時答えていただけたため、参加者の満足度も高かったようです。さらに信金職員より施主としての顧客に対するサービス理念なども伺え、大断面集成材や地域材を利用することに対するこだわりだけでなく多角的な内容を知ることが出来る見学会であったと自負しております。参加者は、座学63名、見学会57名の参加でした。



B 分科会

『波香の四季街』

まちづくり委員会 委員
滝田 祐人（士別支部）



B分科会の今年のテーマは『波香の四季街』と題して行いました。このテーマは、時代の波にもまれ、賑わいを失った街であっても、寄せては返す波のように、また形を変えて再び活気を取り戻そうとする情景『波香』を探りました。

分科会前半はバスでのまちあるきを行い、担当者の説明を受けながら、紋別公園を皮切りに観光交流拠点や港湾地区をみて最後は中心市街地のまち歩きを行う予定でした。あいにくの雨のため中止になってしまいましたが、中心市街地の現状と課題を肌で感じる事ができ、考えさせるものがありました。

分科会後半の講演は、紋別まちづくり推進室の寺井志朗様により「紋別まちづくりビジョンについて」の講演をいただきました。

この中で、ビジョンに掲げた「暮らして元気、歩いて楽しい、ふれあいの街」というのは中心市街地の将来像です。それを実現するために、行政、市民、商工業関係者がそれぞれ役割分担を、課題も含めた貴重なお話をいただきました。

最後に、質疑応答、ディスカッションに移り参加者からは活発な意見が出されました。

紋別市は、観光資源でありますオホーツクの海辺で季節ごと工夫を凝らした様々な風を起し中心市街地に活気を運んでいます。

今回の「まちあるき」、「講演」を通して学びその「波香」を肌で感じる事が出来た分科会になったと思います。

また、今回学んだ多くのことが我々建築士が今後の「まちづくり」に生かされることを期待しております。

C 分科会

「まちなかで考える 地域
コミュニティと空き家～建
築士としてできること～」

青年委員会 委員
福澤 誠（室蘭支部）



C分科会では、近年社会問題となっている空き家問題に視点を当て、空き家の現状や課題、そしてその対策や施策を学ぶとともに、地域コミュニティの活性化に繋がる空き家の有効利用方法を模索し、建築士として何が出来るかを8テーブルに分けてワークショップを行いました。はじめに、空き家問題の現状説明を紋別市建設部建築課都市計画係長阿部様より講演をいただきました。その後、ワークショップをテーマ1と2に分け2部構成とし成果品を作成していただきました。テーマ1では、モデル空き家を設定して、その空き家実際ににかかわるであろう当事者の立場になって具体的な問題を掘り下げ、所有者、近隣住民、行政側にはどのような問題、考えがあるのかを皆さんに考えていただきました。テーマ2では、紋別市中心商店街の放置されている空き店舗をモデルとし、その地域周辺のコミュニティを活性化させる目的で、その空き店舗のリノベーションを提案していただきました。成果品としましては、地域住民と子供たちの交流の場となる寺子屋として使用する。地域住民による観光案内所とするなど、商店街の活性化目的の提案が多くありました。このC分科会をきっかけに、さらに空き家問題に興味や関心を持ち、皆さんの日々の業務の上で、建築士の立場での考え方や関わり方の、わずかながらきっかけとなればと思っております。参加人数は88名でした。

号外発行報告

情報委員会 委員長

神田 光英 (十勝支部)



当委員会では去る9月19日に開催されました紋別大会で「号外」を発行しました。昨年の旭川大会につづき二作目となりました。

情報は人から人へ！をモットーに始めた取り組みですが、皆さん如何だったでしょうか？

今年も「編集局」を設けて、作業に取り掛かりました。大会当日は、風が強く雨も降っており、生憎のコンディションではありましたが、我々委員会の大会テーマであります「足取り軽くオホーツクで熱くなる！」に沿って、走り回っていました。

前日の青年サミットをはじめ、まち歩きがメインになりつつある分科会。取材班も雨具着用、頑張りました。事前の見出しや記事は考えていましたが、各分科会に参加することによる変更にも慣れてきました。当日の配布というのは時間との戦いでしたが、全体的に昨年よりも余裕をもって作業できたと思います。紋別支部の皆様、ご協力ありがとうございました。

来年は室蘭です。「号外」は継続されるのでしょうか・・・楽しみにしててください。皆さんで室蘭大会を盛り上げましょう！



今年も残すところ、一か月となりました。「北海道建築士」も無事12冊を配付することが出来ました。ありがとうございました。

青年サミット「四季から奏でるまちづくり」

青年委員会 委員

鈴木 光彦 (紋別支部)



全道大会(紋別大会)青年サミットが9月18日に開催されました。紋別支部にとって今年度の行事の中、一番のイベントとなりました。全道大会のテーマ「オホーツクの四季を編む」を掲げ、青年サミットでは「オホーツクの四季から奏でるまちづくり」をテーマとし、オホーツクの四季によってこの紋別をより魅力的な街とするためには、どのようなことが必要なのかを、考え、話し合いました。

紋別のことをまず感じてもらうため、バスによるまち巡りを行い、その後中心市街地コースと住宅街コースの2つのコースに分かれ、まちあるきを行いました。

ワークショップでは、紋別のまち巡り、まちあるきの感想等の意見を交わし、市街地図上に計画位置を設定し、「誰のために、何をやる(つくる)、それはどうするか」を考え「魅力アップマップ」の作成を行い、魅力的なまちづくりについて熱い対話がされました。

暮らしているとなかなか気が付かない魅力的なところについての意見やアイデアが出され、とても有意義なものとなりました。

今後は、このワークショップで出された意見等を実現していくために少しずつ行動に移していくことが必要だと感じています。



オホーツクのまちで…「紋別大会を終えて」

事務局長

林 真司 (紋別支部)



オホーツクの四季を編む「北の建築士、季節の中で熱くなれ」をテーマに紋別大会の開催に向けて紋別支部は小さな支部ですが、正準会員と賛助会員が一丸となり大会の準備を進めてきました。

昨年の旭川大会で次期開催地のPRを実施してから、この1年間は果たして紋別大会を成功させることができるのか、不安な毎日がありました。

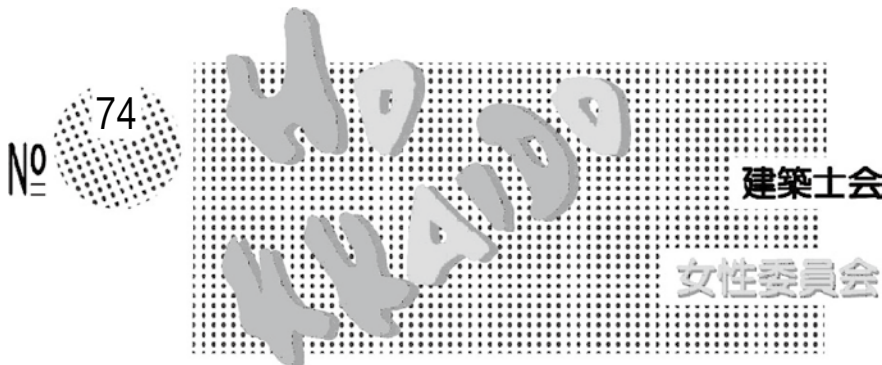
大会の実行委員会を立ち上げ、各部会を構成したが、部会ごとではなく、全員で詳細な内容の検討をしてきました。

大会当日は、青年部層の若い行動力と高齢？(ベテラン)会員の長年の人生経験と鋭い勘によるオールマイティーな柔軟性のある対応と、また、道東ブロック各支部の皆様のご協力、本部事務局のご指導により、無事に大会運営を乗りきることができました。

大会では、式典のオープニング青年サミットと本大会の懇親会で東京プラススタイルオーケストラによる演奏がありました。開幕が引き締まり、懇親会では参加者の皆様が盛り上げてくれたことで、会場の雰囲気が高潮に達しました。

また、基調講演は紋別に縁のある「建築家・倉本龍彦氏」による講話で、関心のある一般の方々も多数参加されました。

最後に、各支部の事務局、大会に参加していただいた皆様の絶大なご支援とご協力によりまして、オホーツクの小さな町で、紋別大会が盛会のうちに終えることができましたことに心から感謝とお礼を申し上げます。



**全国女性建築士連絡協議会
初参加報告**

札幌支部 往田 協子

9月25日、26日、東京で開催された平成27年度第25回全国女性建築士連絡協議会に初参加させていただきました。

今回のテーマは「未来へつなぐ居住環境づくり」～次世代へ伝えたい、こと・もの・暮らし～。全国から約200名の女性建築士が集まり、初日は開会式のあと基調講演、パネルディスカッション、翌日は分科会と全体会、そして閉会と、熱い2日間でした。

基調講演は初代連合会女性委員長の村上美奈子氏「全建女の立ち上げと居住環境づくり」。女性建築士の組織の必要性(全建女の役割)、女性建築士の取組姿勢、全建女の今後、という内容。この業界で女性としての差別、一方女性だからこそこの気付き、出来ること、女性視線の実際の設計提案例等、私を含め多くの女性建築士や関連職種に就いている女性が日頃思い感じていることを言葉にし、課題に向き合ってきたことを実感して勇気を頂きました。また全建女の歴史を知り、過去の錚々たる顔ぶれ、活動に深く敬服しました。

その後のパネルディスカッションのテーマは「未来の居住環境と暮らし方」。パネラーは日本色彩学会名誉会員で建築色彩計画47年のご経験を持つ80歳の若々しくカッコいい女性、門田真午子氏。三井化学R&D関連の広報とイベント運営をご担当、仕事と家庭をしなやかに両立され、ユーモアセ

ンスある竹林のぞみ氏。建築とユニバーサルデザインを学び学生コンペで奨励賞を受賞、将来建築を目指す現役女子大生、内藤麻美氏。大工の娘として生まれ会社を継ぎ、女性が輝く経営を実践、内閣府、経済産業省の国家表彰を3年連続で受賞、ダイバーシティ、ワークライフバランスを積極的に推進しているダイナミックな女性、籠田淳子氏という顔ぶれでした。

「暮らし方」というソフト面についての討論の中で、心のバリアフリー、ユニバーサルデザイン、シルバーハウス、シェアハウスなど、パネラーの皆様の皆様のご経歴通り多様化へのまとめとなりました。

1日目の締めは意見交換会。全国に高い意識を持ってご活躍されている女性建築士の皆様が大勢いらっしゃることに驚き、また我々北海道の活動も全国に誇れる活動だと認識しました。

2日間を通し、全国の女性建築士の皆様パワーを頂きました。私は建築士会主催のセミナーに参加したことをきっかけに入会し、まだ3年にも満たないのですが、周囲の方々にお声掛けいただき貴重な体験をさせていただいています。皆様に感謝しつつ、今後の成長の糧としていきたいと思えます。



連載第4回(全4回)

**ライフオーガナイザー
について**

1級建築士・ライフオーガナイザー
函館支部 岩崎 美乃

オーガナイズで一番時間のかかるのが書類・本・写真など。量が膨大になる可能性もあります。

今回は苦手な方向けに2つのポイントをお伝えします。1つ目は情報の鮮度について、2つ目は情報の加工です。

これ、お料理に似ていませんか?例えばもやし。冷蔵庫に入れっぱなしだと腐ってしまうし、そのまま食べても味気がないですよ。

情報はどんどん新しいもの変わっていきます。情報は、探し方さえわかれば、いつでも必要な時に最新情報を手に入れることができるようになりました。手に入らないモノ以外は持たなくとも良いと割り切ることが大切です。情報は鮮度が大事なのです。腐らせてしまったものはもう食べられません。

そして、情報そのものは「材料」として、使う人が使いやすいように加工しておくことよいのです。例えば、参加するセミナーの案内はいつも使っているカレンダーや手帳、webスケジュール等に日時などの詳細を書き込んで、紙やメールは処分します。(私は忘れないようにアラーム機能も入れています)

でも、例外もあります。思い出のモノです。こちらは情報から切り離し、思い出のモノとして保管します。

情報は、「どのくらいの量をいつまで持つか」をしっかり決めることをお勧めします。

遠軽支部 ひとりごと

支部長
高橋 利己



今回の依頼文を書こうと思っておりましたら、改めて自分が建築の仕事に携わって、かれこれ40年も経過していることに大変驚いています。

つついっ性で、仕事をこなしてきてしまった様な気がして自分自身これでよかったのかと反省することしきりです。

思い返すと当時の建築・土木の休日は、第一・第三日曜のみで盆と正月しか連休がなかったです。

私が最初についた現場は、もっとひどくて3ヶ月休みなしで、夜も現場に泊って仕事をしていたことを思い出しました。

今なら働き過ぎと労働監督署から注意をうけていたことでしょう。

現在の隔週週休2日などは、思いもよらなかった時代でした。

またその頃の現場には、背中にイレズミを入れている人もけっこういたことを思い出しました。

当時は、それだけ仕事があって、それをこなすにはこの程度の休みで施工しなければ、間に合わなかったのかもしれませんが。

私事ですが、先日北海道家庭学

校の礼拝堂（道有形文化財）の耐震調査に立ち会ってきました。

木造の建物で、100年経過した外壁板貼2階建であります。

先人たちの建築に対する情熱と技術に感銘を受け、それに比べて自分はどうかと考えさせられました。



北空知支部 施設見学会

青年部（常任幹事）
舘岡 英司

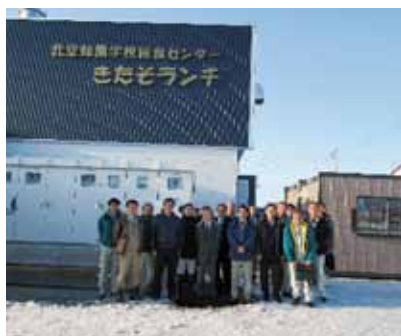


2月20日に、会員22名の参加の中施設見学会を開催しました。

まずは歌志内に建設されました中・北空知一般廃棄物焼却処理施設（エネクリーン）の見学です。

平成25年3月に完成し、14の市町からの可燃ごみを焼却処理しています。「自動化」「公害防止」「余熱利用」によりごみを安心・安全に処理していますが、実際は収集した袋の中には不燃ごみも含んで

いる場合があります。苦慮しているなどの情報もいただきました。



続いて本年4月に稼動しました北空知圏学校給食センター（きたぞランチ）です。1市4町の小中学校に給食を配送しています。

調理エリアの床仕上げは、手間がかかったと言う事ですが、掃除のしやすさを考慮し、床材を30cm立ち上げる等工夫したそうです。また、調理能力は2,200食になりますが、残念ながら今回試食はできませんでした・・・。



最後は懇親会で楽しんでいます。

平成28年 専攻建築士登録申請受付のご案内

？ 専攻建築士になるには・・・(新規認定の要件)

- ・「CPD」を行っており、過去1年間（平成27年1月～12月）に12単位を取得している
 - ・建築士資格取得後の専攻領域の実務経歴年数が5年以上ある
 - ・「当該領域の責任ある立場での実務実績」（要第三者による証明）が3件以上ある
- ※構造設計・法令専攻建築士は、一級建築士を要件としております。

◆専攻建築士認定申請について

- 〈受付期間〉平成28年1月5日～2月29日（当日消印有効）
- 〈申請書〉北海道建築士会HPよりダウンロードできます。
- 〈申込〉申請手数料（審査手数料・登録料）の振込控えを申請書に添付して北海道建築士会へお申込みください。
- 〈手数料〉16,000円(税別)／1領域（1領域ごとに1,000円UP）

◆専攻建築士更新認定申請について

既に、対象のみなさまへは、更新申請についての案内を送付しております。該当の方で届いていない方がいらっしゃいましたら本部事務局までご連絡ください。(011-251-6076)～「専攻建築士制度」とは、消費者に対して専門家として社会に責任の取りうる業務領域（専攻専門領域）を認定・登録し社会に示す制度です。＊詳細は(公社)日本建築士連合会HPをご覧ください。

道士会の動き

道本部の主な会議報告 (11月)

◆第3回まちづくり委員会WEB会議

(開催日) 11月2日(月)

(議案)

- 1) 平成27年度事業実施状況について
- 2) 平成28年度事業計画・予算について
- 3) 都市景観大賞について

◆第3回地域貢献活動センター委員会

(開催日) 11月6日(金)

(議案)

- 1) 「札幌ハルニレプロジェクト委員会」申請の活動助成について
- 2) 平成28年実行計画及び収支予算について

◆第6回全国大会準備委員会

(開催日) 11月6日(金)

(議案)

- 1) 全国大会(北海道大会)運営スケジュールについて
- 2) 全国大会(北海道大会)実行予算について

◆第4回総務委員会

(開催日) 11月7日(土)

(議案)

- 1) 会員増強について
- 2) 全道大会における本大会と青年サミットのあり方について
- 3) CPD・専攻建築士について(報告)
- 4) 個人情報保護法取扱規定等について(理事会提案事項)
- 5) 平成28年事業計画及び収支予算(案)について(理事会提案事項)

◆第2回青年委員会WEB会議

(開催日) 11月7日(土)

(議案)

- 1) 平成27年度事業報告
- 2) 平成28年度事業計画案について
- 3) 平成28年度事予算案について
- 4) その他(連絡会議・集い・サミットについて)

◆四役会議

(開催日) 11月24日(火)

(議案)

- 1) 平成27年第4回理事会の議案について

道本部の主な行事予定 (12月)

- 4日 第4回理事会
- 5日 第3回情報委員会
- 12日 第3回青年WEB会議
- 17日 北海道・東北ブロック会
- 26日 第3回女性委員会

〈建築士合格者発表〉

- 3日 二級・木造建築士
 - 17日 一級建築士
- ※建築士登録申請は、北海道建築士会本部で受付します。
詳細は、ホームページをご覧ください。

関係機関等会議出席状況 (12月)

- 1日 建築士会CPDプログラム評議会(東京) 高野会長出席
- 7日 建築CPD運営会議(東京) 高野会長出席
- 17日 北海道・東北ブロック会(札幌) 高野会長・鈴木専務理事出席

北海道と建築関係7団体の 意見交換会開催

平向住宅局長、長浜建築局長をはじめ道庁幹部の皆様の出席のもと10月15日開催されました。

平向住宅局長、高野会長の挨拶の後、北海道から建築基準法改正後の動向、営繕行政について説明がありました。

北海道との意見交換のなかで、本会からは、プロポーザルでの専攻建築士などJ5認定資格の表記と応急危険度判定士の名簿の開示についてお願いをいたしました。また、建築士免許の交付式と監理技術者講習の開催について説明し理解を求めました。

CPD認定プログラム(11月認定)

◆第49回建築基準法講習会

〈日程及び会場〉 1月19日(火) 他18会場
北海道第二水産ビル(札幌市)

〈単位数〉 4単位
〈問合せ先〉 (一社)北海道建築士会
TEL 011-251-6076

◆札幌市出前講座「路面電車でまちを元気に！」

〈日程及び会場〉 12月10日(木)
かでの2.7(札幌市)

〈単位数〉 2単位
〈問合せ先〉 (一社)北海道建築士会札幌支部
TEL 011-232-1843

編集後記

今年もいよいよ暦が1枚となりました。

年末に向け、みなさまも多忙きわまりないことと察します。

9月の全道大会(紋別大会)も盛況に終え、ホスト紋別支部のみなさまには、大変ご苦勞をお掛けしました。感謝します。

来年もより活発な活動を期待しつつ、今年一年を労りたいと思います。・・・が、くれぐれも飲みすぎにはご注意ください。

情報委員 柳山美保子

情報委員会委員長/神田 光英
副委員長/斎藤 勝哉・早川 陽子・森 勝利
委員/高松 徹・熊谷 智・柳山美保子
鈴木 雅人

北海道建築士 No.220号

印刷 平成27年11月/発行 平成27年12月

編集・発行 一般社団法人 北海道建築士会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11番地
大五ビル
電話 (011) 251-6076番
URL <http://www.h-ab.com/>

印刷 株式会社 正文舎
〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目
電話 (011) 811-7151番